

EAP カリキュラム 質保証指標モデル

4. 教授と学習

4.1 授業が、適切な教授資格のある学位取得者により指導されること。そのうち、多数の教員が、修士号以上の資格があり、高等教育での EAP の教授経験を有していること。

- 履歴書で資格を把握している。
- 学位や資格のコピーを提出してもらい、資格を把握している。
- 学術論文や研究業績のコピーを提出してもらい、資格を把握している。
- 学内外の他の教員からの推薦により、資格を把握している。
- 採用審査時に模擬授業を行ってもらい、資格を把握している。
- 採用審査時に授業計画案等を提出してもらい、資格を把握している。

4.2 すべての EAP 部門の教員が、英語を外国語とする学習者に対する適切な教授経験、さらに、カリキュラムに適した EAP の豊富な経験を有していること。

- 履歴書で教授経験を把握している。
- 学位や資格のコピーを提出してもらい、教授経験を把握している。
- 学術論文や研究業績のコピーを提出してもらい、教授経験を把握している。
- 学内外の他の教員からの推薦により、教授経験を把握している。
- 採用審査時に模擬授業を行ってもらい、教授経験を把握している。
- 採用審査時に授業計画案等を提出してもらい、教授経験を把握している。

4.3 ELT/EAP の適切な資格や教授経験を有していない教員を雇用する際には、彼らの教員としての成長を支援し、観察するための適切なシステム（具体的には、メンタリング、授業観察、定例会議など）があること。

- 採用後、適宜、メンタリングを行っている。
- 採用後、定期的に授業観察を行い、モニタリングしている。
- 採用後、定例会議に参加してもらい、意見交換を行っている。
- 採用後、授業アンケートや成績評価などのデータを参照し、モニタリングしている。

4.4 EAP 部門の教員が、授業のシラバスと、学習者の将来の学業との関係を理解していること。
また、教員がシラバスの構成要素、つまり、授業の目的と学習成果、教材、評価などの関係性を理解し、これらの理解が授業に反映されること。

- 所属学部の教員と EAP 部門の教員との対話の機会を設けている。
- 定例会議などを通じて、教員の理解を深めている。
- シラバス作成ガイドラインなどの、教員の理解を深める資料を準備している。
- シラバスチェックを行い、教員の理解が授業に反映されているか確認している。
- 授業アンケートの学生からのフィードバックを基に、教員の理解が授業に反映されているか確認している。
- 授業で使用された授業計画や教材、ハンドアウトなどを見て、教員の理解が授業に反映されているか確認している。
- 学生の課題のサンプルを見て、教員の理解が授業に反映されているか確認している。

4.5 授業準備では、アカデミックリテラシーと実践への取り組みに十分な注意を払うこと。1 回の授業計画には、次の(a)から(d)の項目が含まれていること。

- (a) シラバス全体と前後の授業に関連した、明確な授業の到達目標と意図された学習成果
- (b) 授業の到達目標に適切な教材と補助教材の準備
- (c) シラバス、時間割、将来の学術的なニーズに即した適切な進度の学習活動
- (d) 授業の学習成果につなげるための主要なタスクにかかる適切な時間配分

- 定例の会議などを通じて、授業計画に(a)から(d)の項目を含めるよう注意を行っている。
- シラバス作成ガイドラインなどの資料を通じて、授業計画に(a)から(d)の項目を含めるよう注意を行っている。
- シラバスチェックを行い、授業計画に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。
- 授業アンケートの学生からのフィードバックを通じて、授業計画に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。
- 学生の課題のサンプルを見て、授業計画に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。

4.6 授業は、EAP 環境に合わせて、コミュニケーションでジャンルに基づいたタスクベースのアプローチで指導すること。授業には、以下の(a)から(d)の項目が含まれていること。

- (a) 授業のオリエンテーションにおける、授業の到達目標、期待される学習成果、理論的根拠の明示（現在のニーズ、または、考えられうる将来のニーズに関連したもの）
- (b) 授業の学習成果につなげるための主要なタスクにかかる適切な時間配分を重視した一連の学習活動

(c) 教室設備、補助教材などの適切な利用

(d) 授業のまとめとして、これまでの学習の振り返りと将来の応用に関する考察

- 定例の会議などを通じて、授業に(a)から(d)の項目を含めるよう注意を行っている。
- シラバス作成ガイドラインなどの資料を通じて、授業に(a)から(d)の項目を含めるよう注意を行っている。
- シラバスチェックを行い、授業に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。
- 授業アンケートの学生からのフィードバックを通じて、授業に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。
- 授業で使用された授業計画や教材、ハンドアウトなどを見て、授業に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。
- 学生の課題のサンプルを見て、授業に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。
- 授業観察などの機会を通じて、授業に(a)から(d)の項目を含めているか確認している。

4.7 授業を通じて、将来の学業において学習者が必要とする能力を理解している、または、理解しようとしている教員の専門的能力が示されること。専門的能力には、以下の(a)から(c)の項目が含まれていること。

(a) 知識の構築と普及に利用できるよう、様々な学術的ジャンルに対する気づき

(b) アカデミック、ノンアカデミックを問わず、様々なジャンルの対象者と目的の理解

(c) 特定の対象者にテキストの目的を伝えるための内容、構成、語彙、構文の選択方法に関する理解

- 定例の会議などを通じて、教員の(a)から(c)の専門的能力を確認している。
- 授業アンケートの学生からのフィードバックを見て、教員の(a)から(c)の専門的能力を確認している。
- 授業で使用された授業計画や教材、ハンドアウトなどを見て、教員の(a)から(c)の専門的能力を確認している。
- 学生の課題のサンプルを見て、教員の(a)から(c)の専門的能力を確認している。
- 授業観察などの機会を通じて、教員の(a)から(c)の専門的能力を確認している。

4.8 学生が、使いやすく整理された適切で幅広いマルチメディア教材のある自律学習施設を利用できるようにすること。学生がこれらの教材や施設を使用する際は、自律学習を促すためのアドバイスを受けられるようにすること。

- 自律学習施設を利用するためのガイドブックを作成している。

- 自律学習施設の利用者向けのウェブサイトを整備している。
- 自律学習施設の利用について授業で案内している。
- 自律学習施設に専門スタッフ（学生アルバイトを除く。）が常駐している。
- 自律学習施設に学生アルバイトを配置している。